

コロナのトリセツ ～こどもにとってコロナとは～

京都田辺中央病院 小児科

伊藤 陽里

2019年12月に中国で初めて報告されて以来、当初は地域で集団発生した原因不明の肺炎とされていた新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全世界に拡散し日常生活を一変させました。症状が出る前の陽性者からも感染すること、時には身近な人が重度な肺炎になってしまうことなど、これまでにない大きな影響力を示しています。日本国内でも次々と変異株が発生し、2021年9月初旬まで5回の流行の波が押し寄せ、“過去最高の患者数”とか、“医療崩壊が迫る”など不安を高めるニュースが毎日のように流れてきます。そんな中、ご家族からは“こどもにはどんな症状があるの？治療方法は？”、“こどもにワクチンを接種しても大丈夫？”、など新型コロナウイルス感染症についての多くの質問を頂きます。2021年9月時点での日本小児科学会のまとめでは、こどもは新型コロナウイルス感染症に罹っても無治療（80%）、あるいは解熱剤の使用（15%）で良くなっており、ほとんどが無症状か軽度の発熱程度の軽症であることがわかります。ただし、元気も食欲もなくなぐったりしている、呼吸が速くて唇の色が悪い、呼びかけてもぼおっとしている、などの症状があれば直ぐに小児科医にご相談頂くようお願いしています。また、2021年6月1日より12歳以上への新型コロナウイルスワクチン接種が始まりました。発熱やだるさなど接種後の副反応は大人よりもやや強く認め、特に軽症の心筋炎、心膜炎の副反応が5～20人/100万人程度報告されていますが、いずれも無事に回復されています。そしてこのワクチンは、こどもにも新型コロナウイルス感染症の発症や重症化、その後の後遺症の発生に対して高い予防効果を示します。こどもに接種するかどうかは、メリット、デメリットを比較して十分に検討してください。そして、“こども→こども”や“こども→大人”の感染よりも、“大人→こども”の感染の方が明らかに起こりやすいので、まずは大人へのワクチン接種や感染管理が優先されるべきです。他にも頂いた多くの質問に答える形式で、本講演は大切なこどもの健康を守るための“コロナのトリセツ”にしたいと考えています。